



伊勢サミットを迎える前に 古事記と宗教について

維新の会・無所属目黒区議団 松田 哲也 議員

<さらに日本の伝統文化教育を>

英語を流暢に話せる人が国際人なのではなく、自国の伝統文化や歴史を持っている人がそうである。小中9年間の各科目の中で、古事記が出てくるのは小2の国語の中の「因幡の白うさぎ」一度だけ。古事記は日本最古の歴史書であり、来年サミットが開催される伊勢はまさにその舞台。2016年伊勢志摩サミットと2020

年東京オリンピック・パラリンピックを控え、総合的な学習の時間等で取り組む好機と考えるがいかがか。

教育長 学習指導要領では、21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目指す観点から、日本の伝統文化を受け止め、継承・発展させるための教育の充実が求められている。現在、小学校では、昔話や神話の読み聞かせ、短歌や俳

句、古文や漢文の学習に取り組み、中学校では、古典の世界に触れ、楽しむなど発達段階に応じた学習を行っている。地域の伝統と文化に対する理解を深めるよう、今後も学校・保護者・地域が連携して多様な取組みを進めていく。

<宗教の多様性と寛容を学ぶ教育を>

2006年に教育基本法が改正され「宗教に関する寛容の態度(中略)は教育上尊重されなければならない」と規定された。2008年から地理と歴史と公民の教科で一定の取組みが始まったことは評価できる。しかし教科書上の記載はまだ乏しい。戦後70年の節目の年に各学校がさらに深く分かりやすい授業を展開できるよう、教育委員会がフォローすべきだ。異文

化を理解し平和な社会を築く人材や、急拡大する市場を取り込む人材を育成するために。

教育長 地理、歴史、公民の各分野の学習成果を踏まえ、国際社会における文化や宗教に触れながら、国家間の相互の協力や国民相互の理解と協力が、世界平和の実現にとって重要であることを学ばせている。小学校7校、中学校2校が、都のオリンピック・パラリンピック教育推進校の指定を受け、スポーツだけでなく諸外国の歴史・文化や外国語学習による国際理解教育に取り組んでいる。教育推進校での取組みを区全体に広げるよう教育委員会としても支援していく。